



総社市ワークショップ報告

制作者

岡山大学

- 文学部

2回生 村崎歩実

- 教育学部

2回生 小川瑞季

- 環境理工学部

2回生 中川量太

4回生 太田岬

- 法学部

4回生 香山裕紀

松尾泰都己

山本尚見

若林貴史

脇本弘正

岡山県立大学

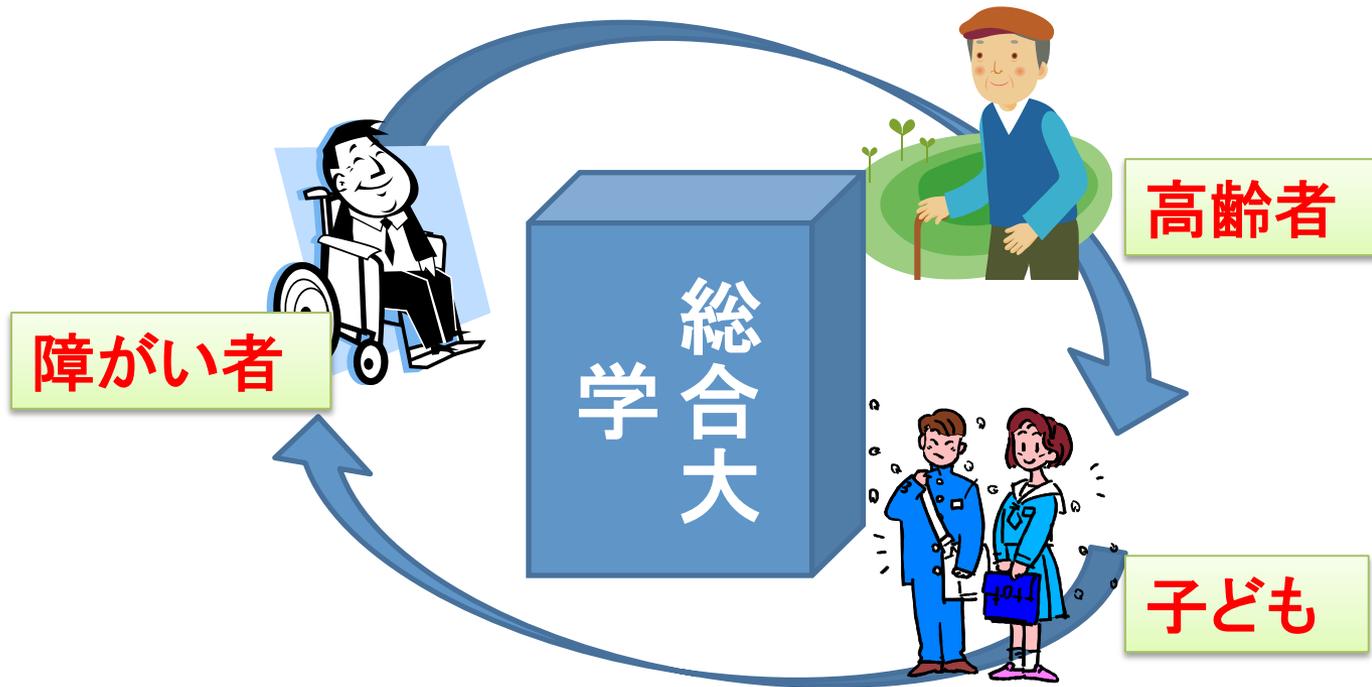
- 保健福祉学部

4回生 美仙勢奈



総社市地域包括ケア

地域と医療・地域と教育



包括的課題解決システムの構想



総社市山手地区の特徴（選定理由）

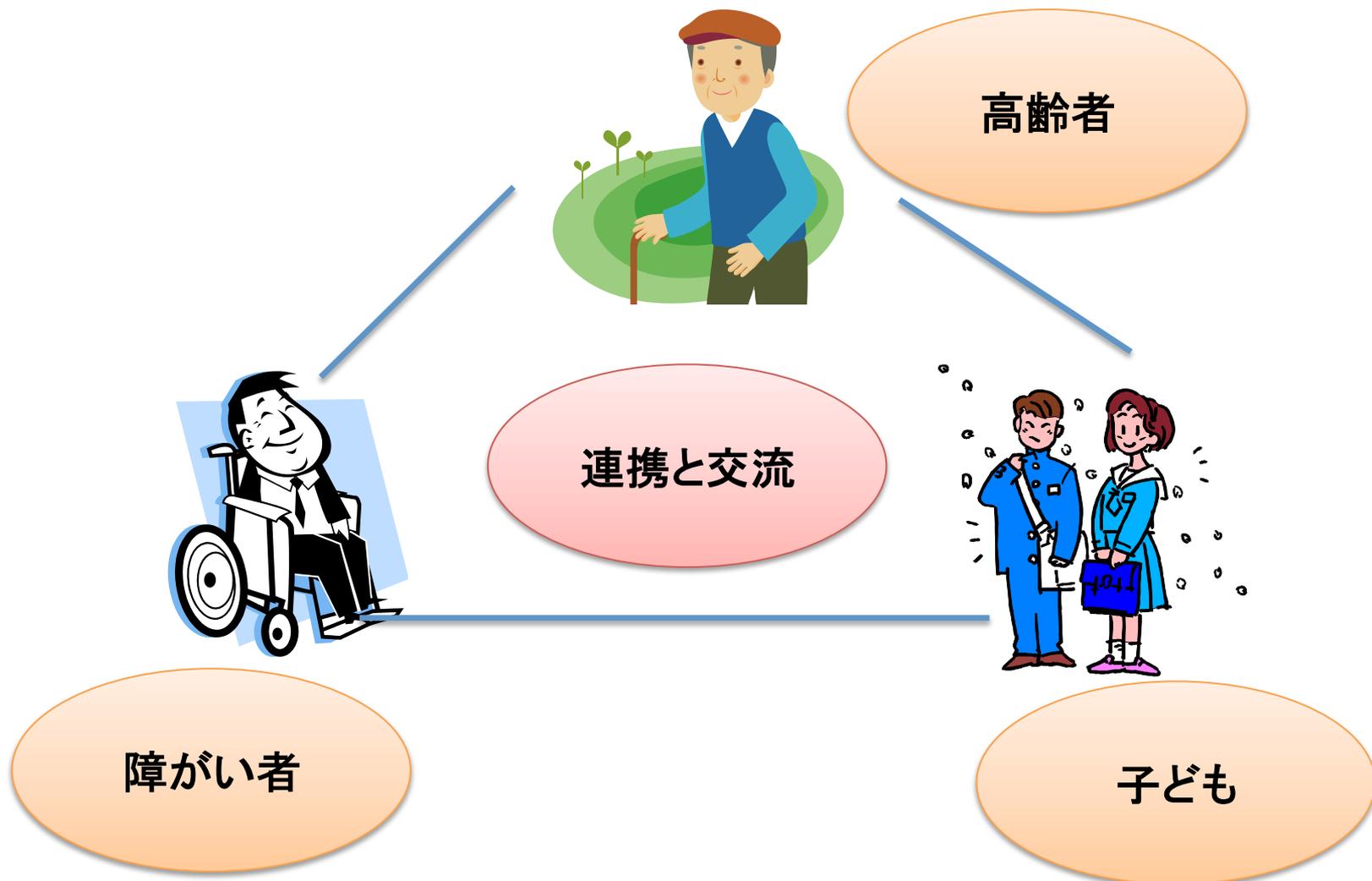
- 総社市山手地区社会福祉協議会の活動が活発であること
- 福祉委員が設置され、活動が推進されつつあること
- 地域包括支援センターと、民生委員、福祉委員との連携が図れていること
- 旧山手村という単位で地域としてのまとまりがあること

福祉活動が活発である＝福祉についての課題が浮き彫りになる

地域の人びとの話の中から課題を発見

課題解決のための提案・実施

現状と課題



ヒアリング結果

子どもとの交流に関する現状と課題

- アパートが増え、新居住者が増えた
→若い世代とどう交流していくか
- 表札を出さないため誰が住んでいるかわからない
- 地域の集会への参加が少ない
- イベントを開催しても参加者は固定
→真のニーズは？
継続できるのか？



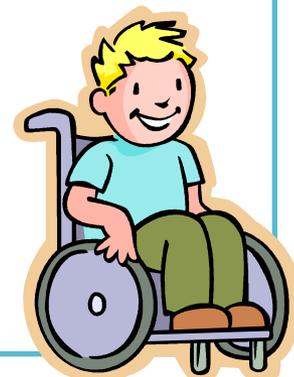
高齢者に関する現状と課題

- 退職後の男性高齢者の社会参加が少ない
- 民生委員が訪問しても頼ることを嫌がる人もいる
- 病気についての知識が少なく、病院に行くことを恐れてしまう人がいる
- 合併後、個人情報保護の観点から、高齢者の必要な情報を民生委員が手に入れにくくなった



障がいをもつ方に関する現状と課題

- ご両親・ご本人の高齢化
→ 介護の困難、虐待、経済的困難
- 困難を抱えている方の発見が難しい
- 知識不足
- 知的障がい、精神障がい、身体障がいをもつ方
それぞれの横のつながりがない
- 障がい者雇用に対する法的な弱さ



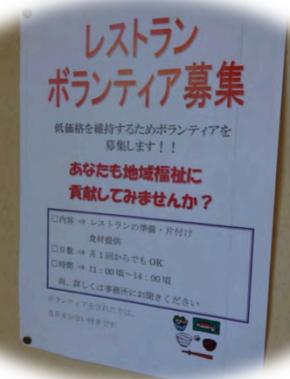
ヒアリング結果

担い手不足

- 民生委員は一度選ばれると何度も任され任期が長い → 役員が固定化されてしまう
- ボランティア不足
- 若い人が民生委員や福祉委員になっても、高齢者の気持ちがわかりにくく、コミュニケーションがとりにくい → 次の担い手をどう育成していくか

広報不足

- ボランティアの募集
- イベントの周知



ヒアリング結果

つながり・連携不足

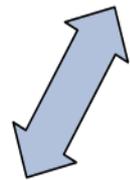
- 高齢者、障がいをもつ方、子どもの間での交流不足
- それらを支援するグループ間での情報交換
- 行政との連携の問題
 - ・行政は問題をたてわりで処理
 - ・公平性を保つため数年で担当者を入れ替えてしまう
 - ・個人情報保護の問題

現在行われている取り組み

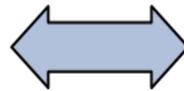
高齢者



交流



障がい者



子ども



子どもに関する取り組み

- 地域の方の学校への参加
→ex. ミシン、九九、読み聞かせ教室
- 小学生の福祉センターへの訪問ボランティア
- 特別支援学級
- 放課後の預かり保育“山っ子”



高齢者に関する取り組み

- お寿司の弁当を配る(月1回)
- 老人クラブで旅行
- 見守り隊
 - 見守り台帳の作成
- 給食サービス
- ケア会議(小地域ケア会議は1、2ヶ月に1回)
- ふれあい新聞 年4回程度
 - 75歳以上の見守りかねる
- サロン



障がい者に関する取り組み

- 障がい者1000人雇用

目的: 総社市障がい者千人の雇用を目指す

- ・総社市障がい者千人委員会(H23.5)

- ・推進条例制定(H23.12)

- ・障がい者雇用センター設立(H24.4)

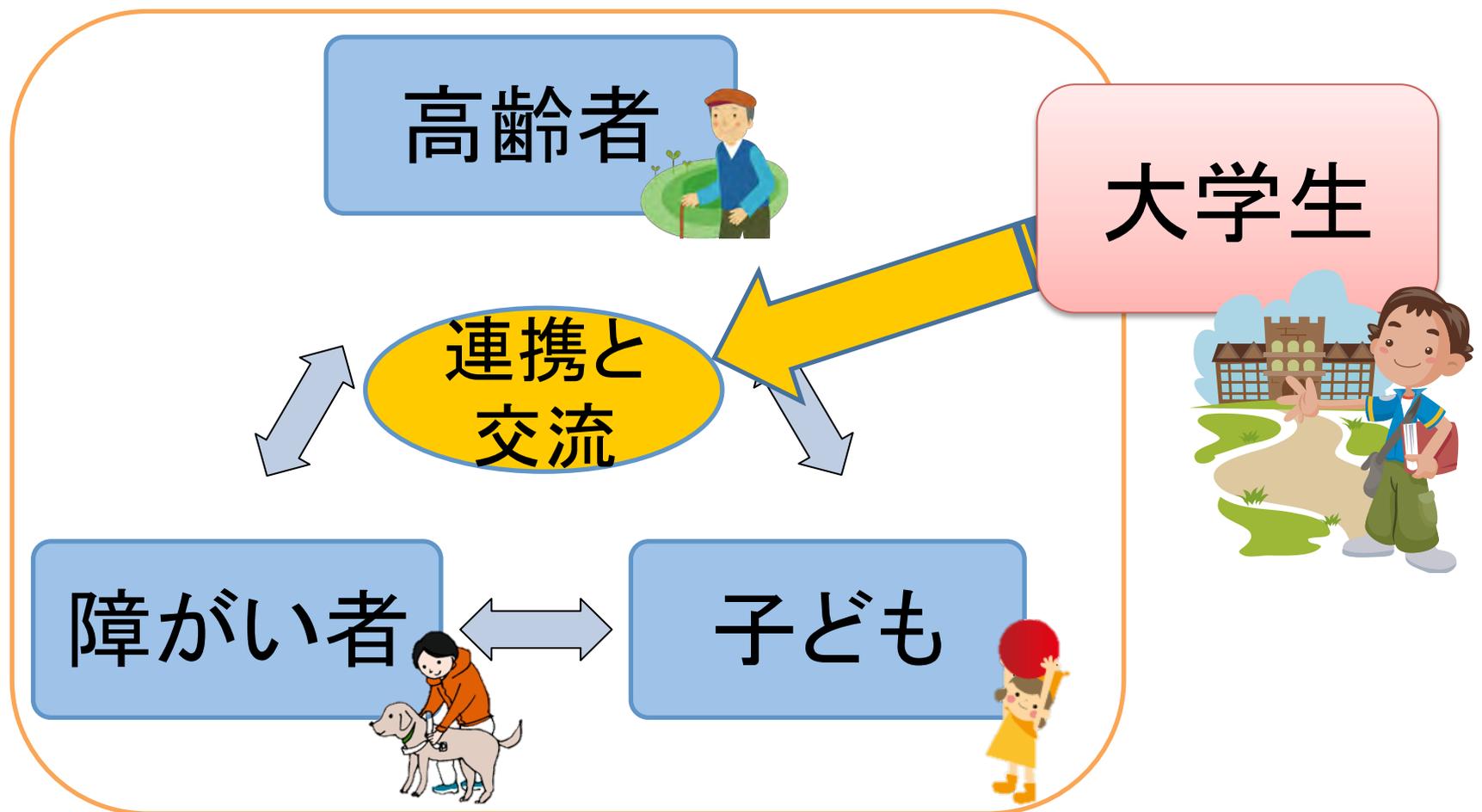
→就職を支援



地域での交流

- 仲良しウォーキング
→世代間交流
- 村民運動会(旧山手村地区)
→小学校の運動会の後
- ふれあい会
- 昔遊び(公民館活動)
- 福祉施設のレストランで特産品の地産地消

これからの取り組み —大学生の積極的な地域参加—



- 1 吉備路散策・まちあるき
- 2 福祉フェア・お祭りへの参加
- 3 参加型授業
- 4 仲良しスペースの設置
- 5 福祉作業所の商品の販売
- 6 障がいをもつ生徒の保護者交流会
- 7 問題解決のケースブックづくり

吉備路散策・まちあるき

◆ 目的

- ・大学生の地域交流のきっかけづくり
- ・吉備路の魅力を伝える場所をつくる



◆ 具体案

- 散策と地域の方によるまちの文化の紹介
- 散策と子どもたちによるまち紹介

◆ 効果

- ・人間関係を深めることで、話し合いが活発になる、親身な話ができる
- ・子どもたちが地元について学ぶきっかけになる

福祉フェア・お祭りへの参加

◆ 目的

- ・子ども、高齢者の交流の場所をつくる
- ・大学生の地域活動への参加

◆ 具体案

- 大学生による出し物、イベント
例) 人間すごろく大会、
ゲーム大会

◆ 効果

- ・ゲーム・イベントを通じた世代間交流



参加型授業

◆ 目的

- ・地域みんなで学び、話し合う場をつくる
- ・子どもたちに自然、伝統文化に触れてもらう

◆ 具体案

➤ 学生主体の授業

- ・消費者問題、健康増進、自由研究、英会話etc
- ・演劇、ペープサートetc

➤ 高齢者主体の授業

- ・伝統の遊び・料理、農作業

◆ 効果

- ・体験を通じた学習ができる、地域の伝統・文化を学べる
- ・世代間交流ができる



仲良しスペースの設置

◆ 目的

- ・定期的な遊びの場をつくる

◆ 具体案

➤ 仲良しスペースの設置

例)参加自由な交流場所の提供

➤ 大学の施設でのイベントの開催

➤ 地域でのイベントの企画

例)ペタンク大会、運動会、かるた大会

◆ 効果

- ・交流の場所の定期的な提供により、継続的な交流ができる
- ・子どもを中心とした世代間交流の場所ができる
- ・学生がお兄さん、お姉さんとして子どもの話が聞ける

福祉作業所の商品の販売

◆ 目的

- ・障がいをもつ方の社会貢献・進出の場所づくり

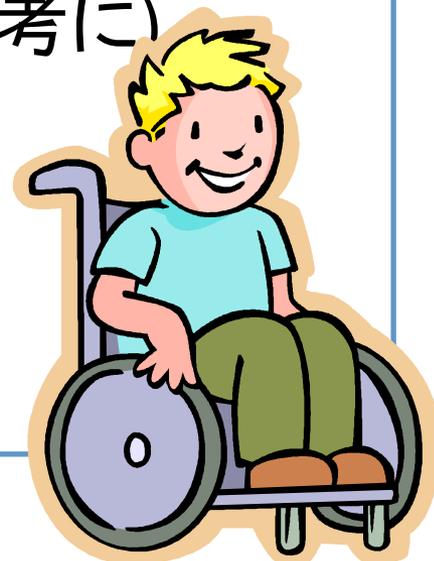
◆ 具体案

- 生徒・障がいをもつ方の共働販売のお店

例) 公共施設や大学施設(東広島市参考に)

◆ 効果

- ・障がいをもつ方との共働ができる
- ・障がいに対する理解の増進



障がいをもつ子どもの保護者の交流

◆ 目的

- ・さまざまな障がいをもつ子どもの保護者の交流

◆ 具体案

- 専門家を招いたうえで、お互いの工夫や活動に対する意見交換

◆ 効果

- ・他の方の工夫や活動を知ることができる
- ・連携した活動のきっかけとなる

問題解決のケースブックづくり

◆ 目的

- ・過去の活動を今後に活かす

◆ 具体案

- 活動内容や結果などをまとめる
- 定期的な報告会を開く

◆ 効果

- ・活動を継続したものにできる



みなさまご清聴ありがとうございました。
引き続き、ご指導をよろしく申し上げます。

岡山大学 岡山県立大学
参加学生一同